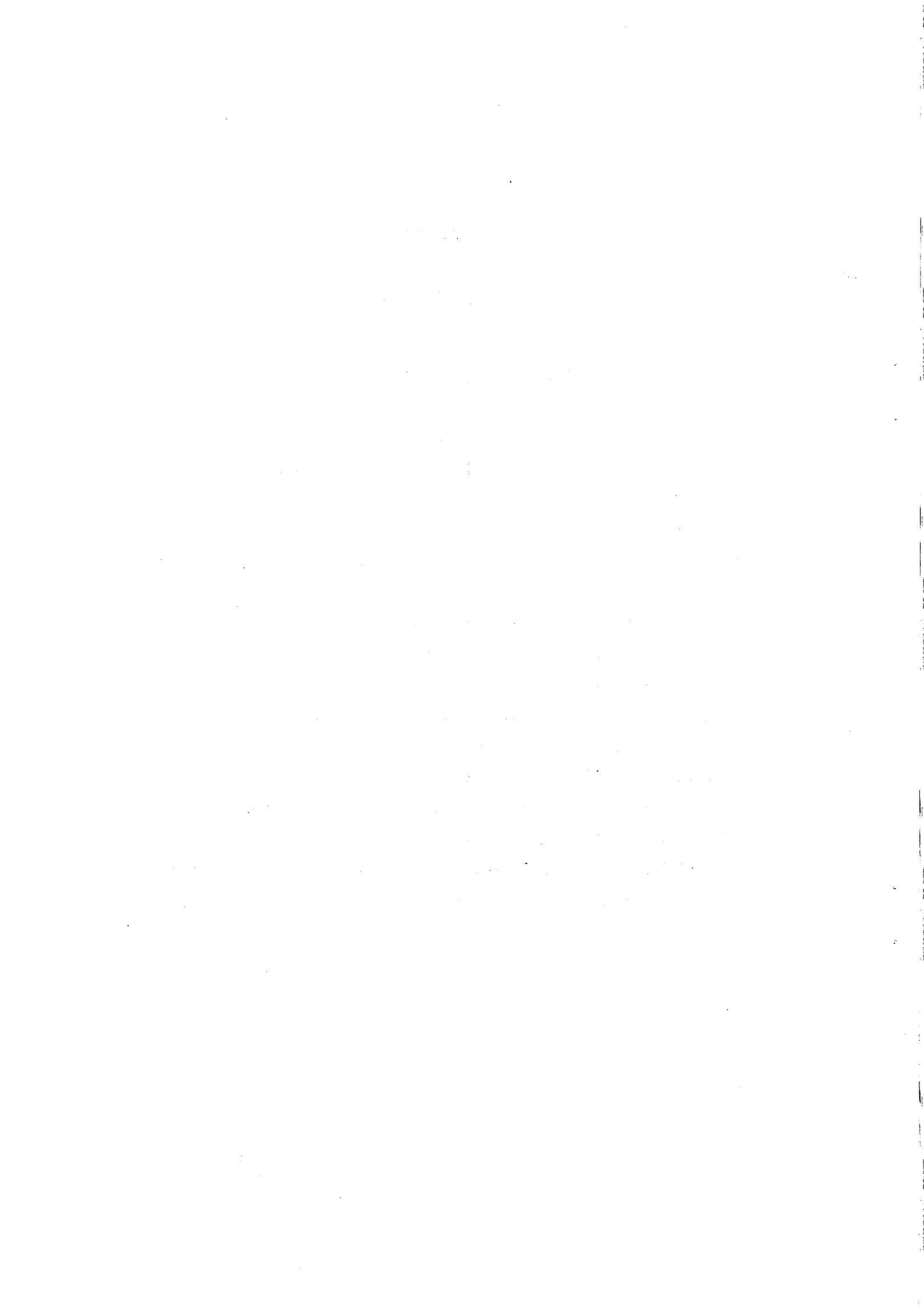


2020 年度 入学 試験 問題

世界史 B

(試験時間 16:25~17:25 60分)

1. この問題冊子が、出願時に選択した科目のものであることを確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙には、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類があります。
3. 解答は、必ず解答欄に記入およびマークしてください。解答欄以外への記入およびマークは無効となります。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。
5. 解答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。また、マーク解答用紙を記述解答用紙の下敷きに使用しないでください。
6. 解答用紙には、必ず受験番号と氏名を記入およびマークしてください。
7. マーク解答用紙への受験番号の記入およびマークは、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないようにしてください。
8. 一度記入したマークを修正する場合、しっかりと消してください。消し残しがあると、マーク読み取り装置が反応して解答が無効となることがあります。



I 次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(36点)

ローマ帝国は、ギリシア文化をはじめとする多様な文化・文明・民族を、地中海世界として統合した。そして、ローマ文明はヨーロッパ文明の母体となり、ローマ帝国に広まったキリスト教はヨーロッパ思想の源流となった。しかしながら、地中海世界は、ゲルマン人の大移動、西ローマ帝国の滅亡、イスラーム勢力の侵入により政治的・文化的統一性を失い、東ヨーロッパ世界・西ヨーロッパ世界・イスラーム世界の三つに分裂していった。

東ヨーロッパではビザンツ帝国(東ローマ帝国)がローマ帝国の伝統を引き継ぎ、皇帝はギリシア正教会を服従させて中央集権的一元支配を維持した。スラヴ系諸民族もビザンツ文化の影響下で自立・建国し、ビザンツ帝国とともにギリシア=スラヴの世界を形成した。一方、西ヨーロッパではローマ=カトリック教会がフランク王国と手を結び、ギリシア正教会とビザンツ帝国に対抗した。

西ヨーロッパでは、ゲルマン人の大移動後の混乱期に商業と都市は衰え、経済の基盤は農業生産に依存するようになった。貨幣よりも土地や現物が価値を持ち、たびかさなる外部勢力の侵入から生命財産を守るため、弱者は身近な強者に保護を求めた。そこから生まれた西ヨーロッパ中世特有のしくみが、封建的主従関係と土地領主制(莊園制)である。

11世紀になると、封建社会は安定と成長の時代にはいった。気候は温和で、三圃制の普及や農業技術の進歩により農業生産は増大し、人口も飛躍的に増えた。それにより、西ヨーロッパ世界は内外に向けて拡大しはじめた。たとえば、修道院を中心とした開墾運動、オランダの干拓、エルベ川以東への東方植民、イベリア半島の国土回復運動、十字軍などである。十字軍は、結局、失敗したが、西ヨーロッパ世界に大きな影響を与えた。

【設問 I】 波線部(i)～(iv)に関連して、以下の問の答えを記述解答用紙に記入しなさい。

問 1 波線部(i)に関連して、 と に入るもっとも適切な語句を漢字で記述解答用紙に記入しなさい。

封建的主従関係は、ローマ帝国末期に起源を持ち奉仕や勤務と引きかえに有力者から土地を貸与してもらう 制度と、古ゲルマンに起源を持ち有力者に忠誠を誓ってその従者となる 制に由来する。

問 2 波線部(ii)に関連して、 ～ に入るもっとも適切な語句を漢字で記述解答用紙に記入しなさい。

土地領主制（荘園制）は、中世ヨーロッパにおける土地経営の基本的なしくみであり、あらゆる権力にとっての主たる財政基盤であった。7世紀、ライン川とロワール川間にある王領地で普及した土地領主制では、土地は、領主が直接経営する領主直営地と、農民に小作地として貸与される農民保有地などに分けられた。領主直営地では、不自由身分である農奴は とよばれる労働義務を領主におった。また、農民保有地では、 とよばれる自分の保有地から得られた生産物の一部をおさめる義務を領主におった。領主は国王の役人が荘園に立ち入ったり課税したりすることを拒むことができた。これは、 とよばれた。領主は、農民を領主裁判権によって裁くなど、荘園と農民を自由に支配できた。

問3 波線部(Ⅲ)に関連して、 ～ に入るもっとも適切な語句を記述解答用紙に記入しなさい。

黒海沿岸から移動してきた西ゴート人は、ピレネー山脈をまたいで西ゴート王国をたてた。8世紀の初め、ウマイヤ朝は、イベリア半島に進出して西ゴート王国を滅ぼした。その後、イスラーム教徒によるイベリア半島支配は、15世紀まで続いた。ウマイヤ朝の軍勢は、ピレネー山脈をこえてフランク王国に侵入したが、 の戦い(732年)でフランク王国に敗れ、ピレネー山脈の南に退いた。ウマイヤ朝が 朝(750～1258年)に滅ぼされると、ウマイヤ朝の一部はイベリア半島に逃れ、コルドバを首都とする後ウマイヤ朝をたてた。この王朝は、コルドバに高度なイスラーム文化を生み出した。

一方、キリスト教徒は、バスク地方やカタルーニャ地方で勢力を伸ばし、国土回復運動(再征服運動、レコンキスタ)を続けた。そして、12世紀までに半島の北半分がキリスト教圏にはいった。回復された領土には、カスティリヤ・アラゴン・ポルトガルの3王国がたてられた。その後、カスティリヤ王女である (在位1474～1504年)とアラゴン王子である (在位1479～1516年)との結婚により、両国は統合されスペイン(イスパニア)王国が成立した。

イベリア半島では最後のイスラーム王朝となった 朝(1232～1492年)が、わずかにグラナダとその周辺地域を保っていた。しかし1492年、スペイン王国がグラナダを陥落させ、 朝を滅ぼし、イベリア半島におけるイスラーム支配を終止させた。国土回復運動において、イスラーム教徒と戦ったスペインとポルトガルは、キリスト教を海外に布教しようとする意欲が強く、さらに海外に積極的に進出していった。

問4 波線部(iv)に関連して、 ~ に入るもっとも適切な語句を記述解答用紙に記入しなさい。

11世紀に東地中海沿岸に進出し聖地イエルサレムを征服した 朝 (1038~1194年) は、ビザンツ帝国をおびやかしたので、ビザンツ皇帝は、ローマ教皇に救援を要請した。教皇である (在位 1088~1099年) は、スペインでの先例にならい、1095年に 会議を招集し、聖地回復の聖戦をおこすことを提唱した。1096年、各国の諸侯や騎士からなる第1回十字軍が出発し、十字軍国家を樹立しながら、1099年、 朝 (909~1171年) からイエルサレムを奪い、イエルサレム王国を建国した。しかしながら、1171年に 朝を滅ぼしエジプトに 朝 (1169~1250年) を樹立したサラディン (サラーフ=アッディーン) により、1187年、聖地イエルサレムは奪回された。十字軍は第7回までおこされたが、第1回の成功以降、大義を失い、聖地回復の目的はついに達成されなかった。

【設問Ⅱ】 下線部①～③に関連して、以下の問の答えをマーク解答用紙にマークしなさい。

問1 下線部①に関連して、以下の文章で誤っているものを1つ選びなさい。なお該当するものがない場合は(e)を選びなさい。

- (a) アルプス以北のヨーロッパには、前6世紀頃からケルト人が広く住んでいた。バルト海沿岸を原住地とするゲルマン人は、ケルト人を西に圧迫しながら勢力を拡大していった。ゲルマン人は紀元前後頃にはライン川から黒海沿岸にいたるまでの広大な地域に広がり、ローマ帝国と境を接するようになった。
- (b) 紀元前後頃のゲルマン人社会では、貴族・平民・奴隷の身分差がすでに発生していたものの、重要な決定は成年男性自由人の全体集会である民会がおこなった。農業がおもな生活の手段であり、人口増加により耕地が不足し、これが民族大移動の原因のひとつとなった。
- (c) ローマ帝政以降、ローマの下級官吏・傭兵・コロヌス（小作人）として、帝国内に移住するゲルマン人も少なくなかった。
- (d) 4世紀後半、アジア系のフン人がドン川をこえて西にすすみ、ゲルマン人の一派である東ゴート人の大半を征服し、さらに西ゴート人を圧迫した。そこで西ゴート人は南下を始め、その後ドナウ川を渡ってローマ帝国領内に移住した。それをきっかけにほかのゲルマン諸部族も大規模な移動を開始し、約200年にわたるゲルマン人の大移動が始まった。

問2 下線部②に関連して、以下の文章で誤っているものを1つ選びなさい。なお該当するものがない場合は(e)を選びなさい。

- (a) 12世紀から14世紀にかけてドイツ人による大規模な植民がおこなわれ、ブランデンブルク辺境伯領やドイツ騎士団領などの諸侯国がつけられた。
- (b) 商業革命により、西ヨーロッパ諸国は商工業が活発な経済的先進地域となった。他方、エルベ川以東の東ヨーロッパ地域は、西ヨーロッパ向けの穀物生産を大規模におこなうようになり、西ヨーロッパ諸国への穀物輸出が増加した。
- (c) エルベ川以東の東ヨーロッパ地域では、領主が西ヨーロッパ諸国への輸出用穀物を生産するために直営地経営をおこなう農場領主制（グーツヘルシャフト）が広まり、農奴に対する支配が強化された。これは再版農奴制とよばれる。
- (d) エルベ川以東の東ヨーロッパ地域は、中世後期の植民を通じてドイツ領となり、初期には入植促進のため農民に有利な地位が与えられたが、15～16世紀以来、ユンカーとよばれる領主層が農民支配を強化した。

問3 下線部③に関連して、以下の文章で誤っているものを1つ選びなさい。なお該当するものがない場合は(e)を選びなさい。

- (a) 十字軍の失敗により教皇の権威はゆらぎはじめ、逆に遠征を指揮した国王の権威は高まった。その例として、13世紀末に教皇となったボニファティウス8世は教皇権の絶対性を主張し聖職者への課税に反対し、イギリス・フランス国王と争ったものの、1303年、教皇はフランス国王フィリップ4世に捕えられ、その後に釈放されたものの屈辱のうちに死んだアナーニ事件がある。
- (b) 十字軍の影響により、海上輸送を担うイタリアの諸都市は大いに繁栄した。東方貿易（レヴァント貿易）が活発になり、ヴェネツィア・ジェノヴァ・ピサなどイタリアの港市は、香辛料・絹織物などの価格差の大きい商品を輸入して利益をあげた。
- (c) 東方貿易の拡大により、都市と商業はふたたび繁栄を迎えた。都市の市民たちは市場を統一する中央集権的な政治権力の出現を望んだ。そこで国王は彼らと協力して諸侯をおさえ、権力集中をはかるようになった。力を失った諸侯や騎士は国王の宮廷に仕える廷臣となり、領地では農民から地代を取り立てるだけの地主となった。一方、農民の地位は、貨幣経済の浸透につれ向上していった。こうして、封建社会の政治・経済体制は崩壊へと向かった。
- (d) 十字軍は、地中海地域の勢力図を変更しただけでなく、アルプス以北で台頭しつつあった強大な君主国を、地中海地域に引き込んだ。これにより、ローマ教皇・ビザンツなどの地中海勢力に、ドイツ・フランス・イングランドの各君主国が加わる、国際的な政治圏が形成された。

Ⅱ 次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(32点)

16世紀は「トルコの世紀」といわれるほどの繁栄を誇ったオスマン帝国も、17世紀末以後、成長を遂げたヨーロッパ諸国の前に次第に劣勢となった。こうしてオスマン帝国は、ヨーロッパを範とする「近代化」によって、こうした情勢を挽回するためのさまざまな改革を実施する時代へと入った。

1789年にスルタンとして即位した (在位 1789～1807年) は、王子のころからフランス宮廷と親しくしていたが、92年以後、西洋式軍団の創設と行政・税制などの改革をおこなった。しかし、この改革は、旧式軍団であるイエニチェリをはじめとして、守旧派官僚や地方名士などの反対に直面して挫折を余儀なくされたばかりか、 が殺害されるという結果に終わった。

の遺志を継いだ (在位 1808～39年) は、いまやスルタン権力にとって手ごわい存在となっていたイエニチェリ軍団を廃止(1826年)して、これに代わる新たな西洋式軍団を創設し、さらに中央および地方の行政機構改革、地方名士層の弾圧など、一連の中央集権化政策を断行した。演劇との関連では、かつてヨーロッパの音楽に多大な影響を与えたイエニチェリ軍団の軍楽隊「メフテル」を廃止し、代わって、イタリア人オペラ作曲家のジョゼッペ・ドニゼッティを招聘して西洋式の軍楽隊を編成させた。かれは、34年に軍楽隊を「帝室音楽院」として再編成し、この組織はのちにオペラ、オペレッタ、ドラマ、オルタオユヌ(即興劇)、カラギュス(影絵芝居)、軽業、手品、操り人形部門が付け加えられるなど、音楽だけではなく、事実上の演劇学校となった。

のあとを継いだ (在位 1839～61年) は、さらなる「近代化」を約束する 勅令を1839年に発布し、改革は新たな段階に入った。これ以後のオスマン朝における政治・軍事・社会改革は (恩恵改革) と呼ばれている。この時期に西洋近代法が導入されたことによって、帝国は、近代的な法治国家へと移行の第一歩を踏み出した。一方、帝国の経済や社会といった観点から「近代化」の時代を鳥瞰すると、それは、イギリスを中心とした資本主義経済に組込まれる過程であった。たとえば、ほとんどの基幹産業が外国資本によるものであった。こうした状況に対しては、当然のごとく批判が集まった。ヨーロッパへ留学し、そこで

自由・平等・立憲といった近代思想を学び、「新オスマン人」と呼ばれた若い知識人は、文学やジャーナリズム活動を通じて、反専制・立憲運動を展開した。この間に後世「い文学」と呼ばれる、西洋の文学を範とした近代文学運動が生まれた。この運動によって文学は、イスタンブルの中産市民の間に浸透し、ヨーロッパ的世界観、思想、生活習慣などが定着するうえで決定的な役割を果たした。

こうした反専制・立憲運動が76年に実を結んで実現したのが、非ヨーロッパ世界で最初といわれるう憲法の発布と帝国議会の開設による第一次立憲制の成立(1876年)である。しかし、憲法の制定を約束して即位したD(在位1876～1909年)は、77年に勃発したえ戦争を口実として、憲法を停止し、議会を閉鎖した。その結果、立憲制は短期間で終わり、以後30年におよぶ専制時代がはじまった。

この30年におよぶ専制のもとで深まった経済的従属と、領土の喪失とに対して、反専制・憲政復活の世論はふたたび高まった。その結果、1908年に第二次立憲制⁽ⁱⁱ⁾が実現した。これによって自由な空気に溢れたイスタンブルでは、百花繚乱といわれる思想状況の中で、雨後の竹の子のように多数の劇団が結成され、自由を謳歌し、専制を批判する台本が書かれ舞台に乗せられた。しかし、革命にともなう政治的混乱は、ただちに列強の干渉を招き、オーストリアによるおの併合(1908年)、トルコ=イタリア戦争(1911年)、そして2度にわたるバルカン戦争(1912～13年)^③と続く戦乱は、帝国崩壊の危機をもたらした。こうした情勢の中でトルコ人の民族意識はいやがうえにも高揚した。このような政治情勢もまた、この時代の演劇の内容に敏感に反映している。たとえば、イスラム史やオスマン帝国史の栄光やその英雄を素材とした公演が多数上映された。

(永田雄三・江川ひかり『世紀末イスタンブルの演劇空間-都市社会史の視点から』白帝社、2015年、より一部改編抜粋)

【設問Ⅰ】 ～ に入る適切な人物を語群①～⑥の中から選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

[語群]

- ① アブデュルメジト1世 ② アブデュルハミト2世
③ スレイマン1世 ④ セリム1世
⑤ セリム3世 ⑥ バヤジット1世
⑦ マフムト2世 ⑧ メフメト2世

【設問Ⅱ】 ～ に入る適切な語句を記述解答用紙に記入しなさい。

【設問Ⅲ】 下線部①～③に関する以下の問の答えをマーク解答用紙にマークしなさい。

問1 下線部①に関する説明として誤っているものを1つ選びなさい。なお該当するものがない場合は(e)を選びなさい。

- (a) 官僚と軍隊を中核とした中央集権統治機構をととのえ、スルタンはシャリーアの施行とシーア派の擁護につとめる一方、官僚・軍人やウラマーがその統治をささえた。
- (b) 広大な領域を支配するにあたって、支配地を直轄領と間接統治領とに分けた。
- (c) 直轄領に限れば、ムスリムと非ムスリムの人口比率は、同率かやや非ムスリムの方が多かった。おもな非ムスリムはギリシア正教系・アルメニア教会系のキリスト教徒とユダヤ教徒であった。
- (d) 非ムスリムは、地域ごとに宗教と言語別グループをつくり、彼らだけに課せられる人頭税(ジズヤ)や地租(ハラージュ)を納入したうえで、その信仰を許された。

問2 下線部②に関する説明として誤っているものを1つ選びなさい。なお該当するものがない場合は(e)を選びなさい。

- (a) もとは紀元前7世紀半ば、ギリシア人が建設した植民市ビザンティオンである。
- (b) ローマ時代にはビザンティウムと呼ばれ、コンスタンティヌス帝により330年にコンスタンティノーブルと改名された。
- (c) メフメト2世が1453年にコンスタンティノーブルをおとし、ビザンツ帝国を滅ぼして以後、イスタンブルという呼称が一般化し、20世紀に正式な名称となった。
- (d) 16世紀頃数十万ほどだった人口は、今日では、1000万人規模の国際都市となり、トルコ共和国の首都となっている。

問3 下線部③に関する説明として誤っているものを1つ選びなさい。なお該当するものがない場合は(e)を選びなさい。

- (a) 第1次バルカン戦争は、イタリア=トルコ戦争に乗じて、セルビア・ブルガリア・モンテネグロ・ギリシアで結成されたバルカン同盟がオスマン朝に宣戦し、勝利した。
- (b) 第1次バルカン戦争で敗れたオスマン帝国は、戦争後のロンドン条約でイスタンブル周辺を除くバルカン半島のほとんどを失った。
- (c) 第2次バルカン戦争は、第1次バルカン戦争で獲得した領土をめぐるブルガリアとバルカン同盟との間で起きたが、ブルガリアと国境紛争を抱えていたオスマン帝国とハンガリーがこれに加わった。
- (d) 第2次バルカン戦争で敗れたブルガリアはマケドニアなどを失い、失地回復のためにドイツ・オーストリア陣営に接近した。

【設問Ⅳ】 波線部(i), (ii)に関する以下の問の答えを記述解答用紙に記入しなさい。

問1 波線部(i)に関連して、以下の問に答えなさい。

(ア) 1838年にオスマン帝国とイギリスとの間で経済的な不平等条約が結ばれたが、この時にオスマン帝国の宗主権下にあるという名目で同じくこの条約が適用されて、オスマン帝国と一緒に打撃を受けた国はどこか。

(イ) 19世紀に先立ち16世紀にオスマン帝国が国内のフランス人にみとめた通商上の恩恵的特権を何というか。

問2 波線部(ii)に関連して、以下の問に答えなさい。

(ア) 憲法を復活させ、第二次立憲制を実現した革命を何というか。

(イ) この運動を推進した政治組織を何というか。

Ⅲ 次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(32点)

(1) 資本主義社会を確立した産業革命は、まずイギリスで起こった。イギリスの産業革命は、18世紀後半から、綿工業の機械化を中心に進行した。綿工業の技術革新は、1733年の飛び杼の発明から始まった。この発明により、綿織物の生産量が急速に増え、綿糸が不足した。その結果、1764年にはハーグリーブズが 紡績機、1769年にはアークライトが 紡績機、1779年にはクロンプトンが 紡績機といったように、つぎつぎと紡績機の発明が起き、良質の綿糸の大量生産が可能になった。これに対応するため、織物機械のさらなる技術革新が必要になり、1785年には が力織機を発明した。綿工業でのこのような機械化の進展によって、機械をつくる機械工業やその素材である鉄をつくる鉄鋼業、鉄の精錬や蒸気機関の燃料に必要な石炭を生産する石炭業など、他の産業も飛躍的に発達した。

産業革命によって、工業が主軸として発展すると、原材料や製品の大量輸送のため、交通機関の改良も必要になった。1814年に が蒸気機関車を発明し、1825年にはその実用化に成功した。蒸気機関車はその後急速に普及し、1830年にはリヴァプール・マンチェスター間の旅客鉄道が開通した。また、1807年にアメリカ人技師が開発した蒸気船は、19世紀半ばから急速に改良された。このような19世紀の交通・運輸の一大変革は、交通革命と呼ばれている。

(2) イギリスに続き、ヨーロッパ大陸諸国やアメリカ合衆国でも産業革命がすすんだ。1870年代から長期化した世界不況は、このような欧米諸国の経済構造の再編を促進した。従来の石炭に加えて、石油や が新たな動力源として登場した。鉄鋼・化学・機械といった分野で技術革新がすすみ、重化学工業が発展した。この時期の発展は、第2次産業革命と呼ばれている。これらの新工業部門では、大規模な設備投資を必要とすることから、少数の大企業に生産が集中した。大企業は巨額の資本を調達したり、相互の利益を守ったりするため、カルテル（企業連合）や （企業合同）を展開し、しばしば独占体が形成された。また、巨大化した銀行が産業資本を支配する金融資本体制が形成され、 と呼ばれる、大

銀行などを中心とする巨大な企業グループも生まれた。このような独占資本の形成は、後発工業国として台頭した やアメリカ合衆国で顕著だった。これに対し、先発工業国のイギリスやフランスは、資本輸出によって経済的優位を確保した。

第2次産業革命は、欧米諸国が国内で余った資本の投資先や、製品の輸出市場、原材料の供給地を国外に求めるという動機をつくった。このことをひとつの要因として、19世紀の後半、世界各地で植民地獲得競争が激しさを増した。欧米諸国では、産業界や金融界と国家の結びつきが強くなり、排外主義や軍国主義の色彩が濃いナショナリズムが鼓舞されるようになった。このような動きを 主義という。

(3) 19世紀末以降、自然科学のさらなる発展とともに、産業への応用がすすんだ。たとえば、 の が石油を動力とした 機関をつくり、 はガソリンエンジンと自動車を発明し、 社を設立した。20世紀はじめ、アメリカ合衆国のライト兄弟は飛行機を発明し、 はベルトコンベア方式によって自動車の大量生産に成功した。こうした発明が、交通機関のさらなる革新をもたらした。

技術の発展は、通信やメディアでもすすんだ。アメリカ合衆国の による電信機やベルによる電話、「発明王」と呼ばれたエディソンによる映画の発明などが、大衆向けの安価な新聞や郵便・交通の進歩とともに、情報伝達の速度と広がりにより大きな変化をもたらした。

【設問 I】

問1 本文中の ~ に入るもっとも適切な語句を選択肢①~⑧の中から1つずつ選び、マーク解答用紙にマークしなさい。

- | | |
|----------|------------|
| ① 蒸気 | ② ミュール |
| ③ 水力 | ④ ジェニー |
| ⑤ フルトン | ⑥ スティーヴンソン |
| ⑦ ジョン=ケイ | ⑧ カートライト |

問2 下線部①に関連する記述として、誤っているものを1つ選び、マーク解
答紙にマークしなさい。なお該当するものがない場合は(e)を選びなさい。

- (a) 重商主義とは、なるべく多くの商品を輸出して外貨を獲得し、貿易黒字を拡大することが望ましいという理論である。
- (b) 第1次囲い込み（エンクロージャー）とは、議会の承認の下、合法的に行われた土地の囲い込み運動のことである。
- (c) 三角貿易とは、武器などをイギリスから西アフリカに輸出し、黒人奴隷を購入して南北アメリカで売却し、ラテンアメリカでは砂糖など、北アメリカでは綿花などを購入してイギリスに持ち帰るというものである。
- (d) イギリスでは名誉革命によって、議会の王権に対する優位が確立した。

【設問Ⅱ】

問1 本文中の ～ に入るもっとも適切な語句を記述解答紙に記入しなさい。

問2 下線部②に関連する下記の文章について、 に入るもっとも適切な語句を記述解答紙に記入しなさい。

植民地獲得競争の過程で、欧米諸国の一部では、他民族支配の正当化につながる人種的、民族的な差別意識（人種主義）がひろがった。たとえば、日本人や中国人などの黄色人種が、白色人種に災いをもたらすという 論もあらわれた。

